

新井中央小だより

ホームページ <https://myoko.schoolweb.ne.jp/15020005>

メールアドレス myoko.araichuou-es@edu-niigata.ed.jp

No. 315

2026 (令和8) 年2月27日

心のリミッターを外す

冬季オリンピックが閉会しました。今回のオリンピックでの新潟県出身選手の活躍には目を見張るものがありました。

骨折をしながらも出場し、スノーボードの高度な技を成功させ入賞を果たした平野歩夢選手、ジュニアからシニア部門に移り、いきなりオリンピックでメダルを獲得したフィギュアスケートの中井亜美選手、クロスで決勝まで残り最後まで追い上げて挑戦した古野慧選手等、観ていてたくさんの感動を与えてもらいました。自分に制限をかけず、自分の限界を越えてチャレンジする姿が感動を呼んだのです。

学校生活の中でも、「こんなこともできるの!」と、今まで知らなかった子どもたちの姿を観て驚くことがあります。当校では先週、児童会プロジェクト委員会の企画・運営による児童会行事「わくわくフェスティバル」が開催されました。歌、演奏、ダンス、跳び箱での高度な技、何分間も走り続ける1対1のバスケットボール、そしてプロジェクト委員の司会者の楽しい漫才など、あまり授業や学校生活の中で観ることがない子どもたちの姿を観て、周囲の子どもたちも明るく、うれしくなり、その努力を称えていました。「こんなこともできる!すごい。」「こんなことをしてもいいんだね。」そのような子どもたちの心の声が聞こえてきました。もちろん、出場した当の子どもたちも生き生きとして、大変うれしそうで、満足感、成就感を感じているようでした。

心のリミッターを外して挑戦する選手や子どもたちを観

ると、みんな生き生きしています。例え思うような結果を出せなくても、表情がすっきりとしていたり、感謝の言葉を述べたりし、挑戦し成長したことが瞬時に伝わってきます。最近、この「心のリミッターを外す」ことが重要と考えます。特に、学校教育の中では、学習する教科、発達段階に応じて学習する内容、学習する場所なども決まっています。その枠組みの中で子どもたちは学習しています。しかし、その枠は成長することに対して制限をかけることを意味するものではありません。成長できる要素があれば、どんどんと成長できる教育環境を整えていけばよいのです。大人や周囲の子どもたちが、枠組みを決めてしまったり、その子どもに対して固定的な見方やとらえ方をしたりしていたら、その子ども自身も必ず心のリミッターをかけ、挑戦できなくなり、せっかくの成長のチャンスを失うこととなります。



私たちは、とにかく自分の限界を自分で決め、そしてリミッター（制限）をかけてしまいがちです。「自分の可能性を信じ、常識にとらわれずに、積極的にものごとくに挑戦し、成長した新しい自分に気付く。そして周囲もそれを認める。」そのような教育環境を整えていく必要性を感じます。誰もが思い切りチャレンジし、

伸びるところまで伸びていき、そのような自分に満足して、「自分もみんなも 明るくうれしくよかったね」とみんなが感じ合える学校にしていきます。学校も、家庭も、地域も子どもを信じ、心のリミッターを外しましょう。

